

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

長野県 塩尻市

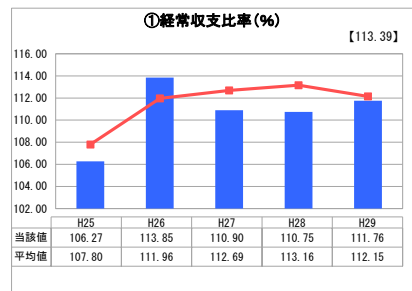
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	63.76	99.91	3,070	

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
67,459	289.98	232.63
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
67,390	102.97	654.46

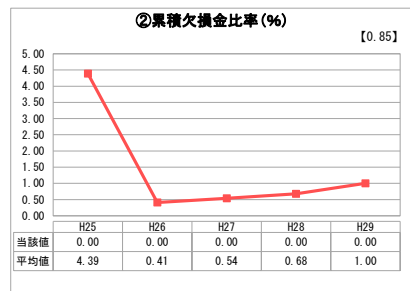
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

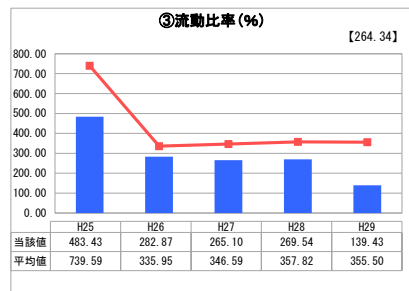
## 1. 経営の健全性・効率性



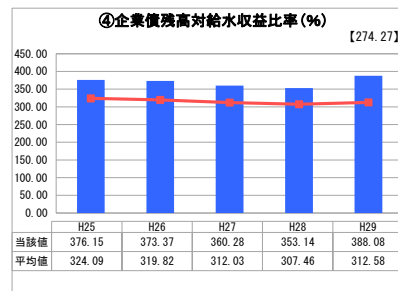
「経常損益」



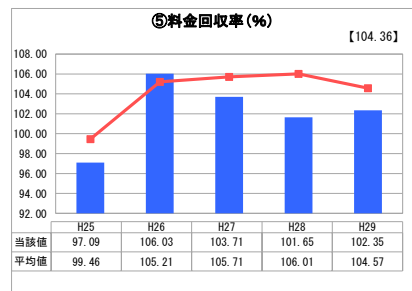
「累積欠損」



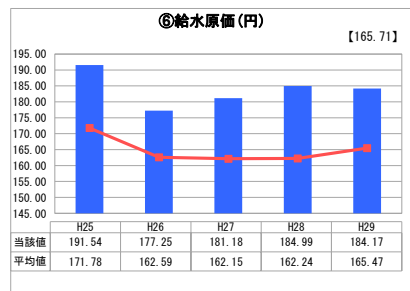
「支払能力」



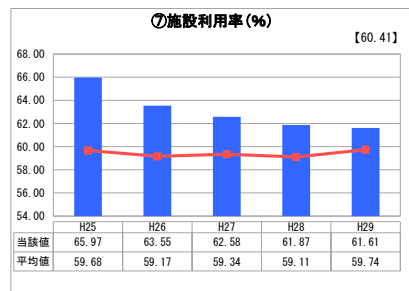
「債務残高」



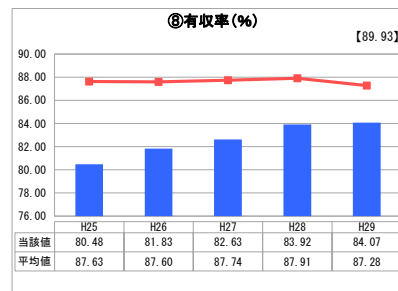
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

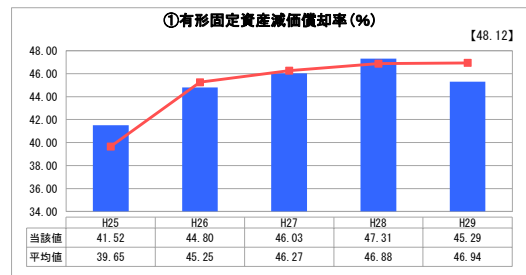


「施設の効率性」

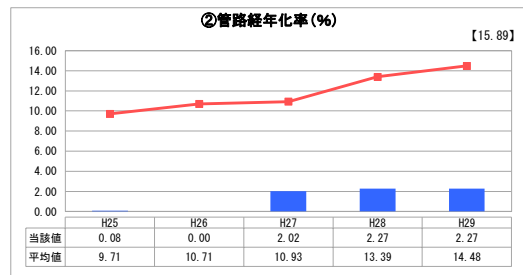


「供給した配水量の効率性」

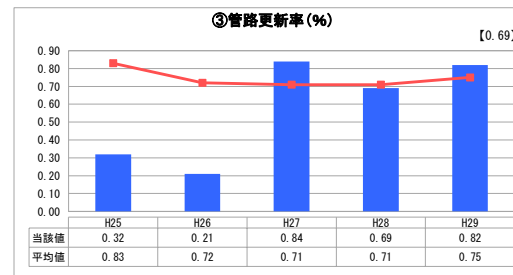
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①、②、⑤経常収支比率は、100%以上を維持し、経常損益は黒字となっています。また、直近5年間に欠損金を計上しておらず、料金回収率も100%を超えていることなどから、健全な経営を維持していると考えられます。

③流動比率は、100%以上を維持しているものの、平成29年4月に簡易水道事業を統合し、その債務を継承したことに伴い、大幅な減少がありました。

④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均よりも高く、統合した簡易水道事業の債務継承により上昇しました。今後も企業債借入額の抑制につながる投資の在り方の検討や、企業債以外の財源確保に努めていきます。

⑥給水原価は、類似団体平均を上回り、高い水準となっています。統合した簡易水道の施設を含め、今後も施設の更新等により給水原価の上昇が予想されるため、投資の効率化や維持管理費の削減に取組む必要があります。

⑦施設利用率は、類似団体平均より高い水準ですが、人口減少や簡易水道事業の統合により、緩やかに減少しています。確実な供給能力を維持しつつ、需要に見合うよう施設規模の適正化を検討していきます。

⑧有収率は、類似団体平均に比べ低い水準を推移しています。老朽管路の更新など、漏水対策に努めていきます。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均とほぼ同じ水準で推移していますが、H29年度は大規模施設の新規取得や簡易水道事業の統合により、前年度と比較して減少しています。

②管路経年化率は、類似団体平均より下回っているものの、上昇傾向にあります。

③管路更新率は、類似団体平均とほぼ同じ水準となっております。今後、耐用年数を経過する管路が増加する見込みであり、計画的かつ積極的な管路更新等を実施していきます。

### 全体総括

今後の水道事業経営にあたっては、水道料金への影響を最小限とし、将来にわたり利用者の負担を可能な限り抑えるため、投資の平準化及び整備コストの縮減を図っていきます。

また、施設の重要度や健全度に応じた修繕や更新を行い、施設の延命化やライフサイクルコストの低減を図っていきます。

水需要の減少に伴う給水収益の減収が予想される中、老朽施設の更新等に多額の投資が必要となりますが、投資と財政のバランスに配慮し、長期的な視野に立った効率的・効果的に事業を展開し、更なる経営改善に取り組むことで、健全で持続可能な事業経営に努めていきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。